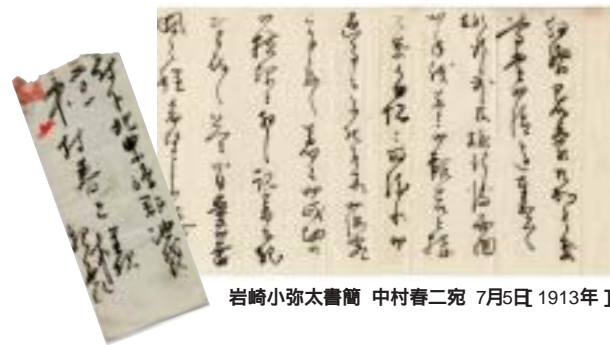


おもな学校行事予定(11月~12月)

	大学	高等学校	中学校	小学校
11月	1(土) AOマルデス入試審査 実技/思考力審査(工学部) 2(日) AOマルデス入試審査 面接審査(工学部) 8(土) AOマルデス入試審査 2次審査 (経済学部・法学部・文学部) 15(土) AOマルデス入試合格発表 20(木)~24(月) 櫛祭期間 22(土)・23(日) オープンキャンパス	8(土) 第1回学校説明会 15(土) 第2回学校説明会	13(木) 小中教育懇談会 29(土) 第3回学校説明会	1(土)~4(火) 新1年入試
12月	22(月) 授業終了 23(火)~1月8(木) 冬期休業	4(木)~9(火) 期末テスト 20(土) 終業式・保護者会	4(木)~8(月) 期末テスト 17(水) 終業式・保護者会 21(日)~24(水) スキー教室	11(木) 音楽会 (武蔵野市民文化会館) 19(金) 終業式

12月7日(日)に成蹊学園フレンドシップ・コンサート2003を武蔵野市民文化会館で開催いたします。詳細はP.3をご覧ください。



岩崎小弥太書簡 中村春二宛 7月5日 1913年]



成蹊学園一〇〇年史 年報 第一号

成蹊学園は二〇二二年に中村春一が成蹊実務学校を創立してから一〇〇年を迎えます。学園は二〇〇一年に「成蹊学園一〇〇年史編集委員会」を立ちあげ、一〇〇年史編集事業がスタートしました。事業の進捗と研究の成果を学内外のみならずにお知らせすることを目的として、成蹊学園一〇〇年史編集委員会による年報を毎年刊行することといたしました。このたび、年報の第一号が完成しました。内容としては成蹊学園の小、中、高等学校を卒業された北村和夫氏(聖心女子大学教授)の講演録「学園史の編纂 成蹊学園史に期待するもの」や、事業の基本的な目的と活動方針、史料紹介、事業日誌などです。

史料紹介のうち一つは、成蹊学園史料館に保存されている中村春一宛岩崎小弥太の書簡全一〇点を現代語訳と併記し取りあげました。学園創設の二人の関係をつかぎたい知ることのできる貴重な史料です。

また、創立時に東京府に提出された「成蹊実務学校設置認可願」とその下書きと思われる中村春一先生自筆の史料を比較、紹介しています。

年報をご希望の方は広報課までご連絡ください。また、今後も学園史編集事業が続きますので、(史)資料の収集にご協力をお願いします。

SCHOOL JURIDICAL PERSON SEIKEI GAKUEN

成蹊学園 広報

第51号
Autumn
2003

伝統ある少人数教育を活かした 企業法務に強い「ロースクール」を目指します 2004年4月 法科大学院開設予定

[CONTENTS]

- インタビュー 中学・高等学校 谷校長
- 成蹊学園フレンドシップ・コンサート2003の開催について
- 格付けの取得について
- 2004年4月法科大学院開設について
- 大学の近況
- 中学・高等学校の近況
- 小学校の近況
- 学園トピックス
- 保健管理センターから
- 学校行事予定(11月~12月)/学園史料紹介

学園内の紅葉



成蹊学園広報

2003年11月1日 発行 学校法人成蹊学園 総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 37-3517

URL <http://www.seikei.ac.jp> E-mail koho@jim.seikei.ac.jp



未来へ!!

伝統とともに飛躍しよう!!

世界のビジネス界で、まさにグローバルな活躍をされてきたのがこの6月から成蹊中学校・高等学校校長に就任された谷正紀先生です。今後はその辣腕を21世紀の成蹊人の育成に振ります。

「維持より」変革」の チャレンジングなキャリア

先生は成蹊の大先輩でいらっしゃると思いますが、中高生と最初に会ったとき、どんな印象を持たれましたか。

生徒たちは伸び伸び素直で、昔と変わらない良さがしっかり受け継がれている印象を持ちました。みんな「いい顔」をしているなと思いましたね。

三菱自動車で社会人としての卒業生と出会う機会もあったと思いますが、成蹊の精神が彼らの中に生きていられるようになった部分はありますか。

大変協調性があり、それにやはり素直ですね。表現を少し変えると少々ノビリしているところもある(笑)。ひとつにはそういう温かな家庭に育ってきた子どもたちが成蹊には多いのではないかと。それからこれは本校の授業の特色でもあります。先生方のたゆみない情熱と努力により授業の幅が非常に広く、個々の生徒がいろいろな勉強をする中から、自分の良いところを見つけて伸び伸びと育っ

力化しています。したがって期待される社会人像をめざして、資質をいかに伸ばしていくか、それが中等教育は最も重要だと考えています。

成蹊高校からは外部大学受験が非常に多く、今春の内部進学率は25%を切っています。このことについては、どうお考えですか。

先生方にもヒヤリングを行ったのですが、まず我々には一つの共通認識として「成蹊は進学校ではあるが受験校ではない」ということがあります。ほとんどの生徒が大学に行くことを前提として入ってきていますから進学校であるのは確かです。でも受験校のことはしていない。外部受験生が多い理由のひとつは、生徒の希望する進路が多様であることです。たとえば医学系、生物系、芸術系などといった成蹊大学にない学部に進む生徒たちです。この点では本校は、個人個人の才能を引き出す教育を行い、その結果多彩な進路が選択されている面があると思います。

そのほかにもいくつか理由はあると思いますが、進学率が高まった今の時代、「決心の先送り」といった一般的な風潮が大きいと思っています。自分は何をするために大学に行くのか、それを決めずに、有名大学でも受けてみようかということになる。でも成蹊大学には優れた教授陣がいて進んだ研究が行われている事実や、少人数教育のメリットなど、成蹊大学の良さをもっとわかりやすくアナウンスすることによって、今後は変化してくるのではないのでしょうか。将来的には、高大連携教育の魅力的なシステム作りも

ているなと感じました。
三菱自動車では、どのような職域を担当されていたのでしょうか

自動車好きが高じて三菱に就職し、車ひとすじの37年間でした。技術に関わるほとんどの分野に携わってきましたが、なぜか、常に新しくニーズが起きた分野や、すでにあった組織分野でも新しいニーズによって変える必要が出てきた分野ばかりを担当してきました。私自身、チャレンジングなことが好きだったし、良きチャンスにも恵まれました。「維持」より「変革」の仕事ですから、どの職場もやりがいがあり、それなりの成果も出して幸運だったと思います。

ここ数年は、生産統括本部長として世界中の工場を統括されておられたことがありますが。

三菱資本100%の大きな工場は、アメリカ、オランダ、タイ、オーストラリアなどにあります。そのほか委託生産も含めたローカルなものは、中国、台湾、フィリピン、インドネシア、ベトナム、マレーシア、南米などにもあり、まさに

必要だと思っています。

小学校から大学までの一貫連携教育の中で、中等教育が担う役割については、どのようにお考えですか。

結局、個人の資質をどう開発してあげるかだと思います。そのための教育には段階があつて、小学校の役割は個人の資質を引き出すことで、中学校はその資質をいかに自覚させるか、そして高校は資質を伸ばす役割があります。そして大学で資質に磨きをかけ、やがて資質を發揮し社会に貢献していくこととなります。中高で資質を自覚させ伸ばす。そのステップにうまく関わっていく教育を展開していくことが大事だと思っています。

成蹊中学・高等学校における ニューバランスポイント

成蹊中学・高等学校の未来に、どんなビジョンを描いておられますか。

私は教職員に「伝統とともに飛躍しよう」と言っています。成蹊はご父母からの信頼も厚く、受験生の人気も高い。それは伝統の力であり、教職員が積み重ねてきた努力の結果でもあります。しかし今が良い状態だからといって現状維持のままだったら、相対的な競争力は低下します。なぜなら周囲は歩みを止めず、本校を取り巻く環境が刻々変化しているからです。これはどの世界でも言えることで、現状維持は結局退歩と同じなんです。成蹊はこんなに素晴らしいと誰からも認知されるように、我々は積極果敢に努力し、教育の成果が常に生徒の中に現れてくるようにすることが大事です。

たゆまぬ変革ですね。

interview

成蹊中学校・高等学校長(2003年6月25日より)

谷 正紀



たに まさのり
愛知県出身 1942年生まれ
学 歴
1961年3月 成蹊高等学校卒業
1966年3月 成蹊大学工学部機械工学科卒業
1970年6月 米国カリフォルニア州立大学修士課程修了
工学博士

職 歴
1966年4月 三菱重工業㈱入社
1970年4月 三菱自動車工業㈱分社に伴い同社に移籍
2001年6月 三菱自動車工業㈱代表取締役副社長に就任
2003年6月 三菱自動車工業㈱退社

三菱自動車工業㈱入社時より当時は新分野であった自動車の衝突安全性の研究開発に従事し、その後自動車の先行技術開発、電子技術開発を担当し、研究開発した新技術に対して「自動車技術会賞」などを4回受賞。1996年より乗用車の商品マーケティング、開発取りまとめを通じて、多くの車種を商品化。2001年より生産統括本部長として全世界にある工場での乗用車生産を統括。

1978年より成蹊大学工学部で「自動車工学」の講義を担当。

く世界中ですね。

成蹊は早い時代から国際化を教育テーマの一つに掲げてきました。先生は長年外国の人々とお仕事されてこられたわけですが、日本人が真に国際化していくうえで重要なことは何でしょうか。

国際化とかグローバル化については二つの要素があると思います。一つはグローバルと言っても、特に経済面では西洋社会の考え方が主流だということ。それから西洋のカルチャーや考え方を理解した上で日本人として考え、行動していかないと、言語だけでないコミュニケーションギャップで、方向を間違える可能性があります。もう一つは「ローカル」とも言うことでしょうか。今は米欧だけとビジネスをしていけばよいという時代ではありません。そこで世界に目を向けてみると、仏教文化もあればイスラム文化もあるように、各地に固有の文化や考え方があり、それを理解しないことには、その社会でビジネスはできません。つまりグローバルには西洋的な思想を理解し、ローカルには個々のユニーク性を理

成蹊は進学校ではあるが
受験校ではないという認識

中学・高校で、どのような人物を育てたいとお考えですか。

まず認識しておきたいのは、いわゆる「有名大学」を出ていても、組織の中で成り立っていないということです。自立しているか、自律性や協調性はあるか、ポジティブに動けるか、自己開拓できるか、チームワークの中で力を發揮できるかが重要で、高学歴でも知識だけの人間は無

変革というと、今やっていることが悪いのかというふうな受け止められがちですが、そうではありません。新しいニーズは常にあるわけで、しかしその時、新しい点だけが現状にボンと追加されるだけでは解決にはなりません。必ず全体のバランスが崩れて、多くの問題が顕在化することになります。すると「今まで通りで行こうか」となってしまうのが世の常です。私はよくニューバランスポイントと言いますが、新しいニーズと今やっ

ている必要なことを合わせてどういう枠組みにしたらバランスが取れるかということが肝心なことです。日常の大切な教科指導と生活指導で多忙な先生方にとって、将来への視点を持って新しいニーズに対応していくのは大変なことだろうと思います。しかしより魅力ある成蹊に飛躍していくために、全職員がベクトルを合わせて動けるようにして行くのが私の仕事だと覚悟しています。

(インタビュー/広報課 伊藤昌弘)

成蹊学園フレンドシップ・コンサート2003開催

成蹊学園では昨年に引き続き本年度もフレンドシップ・コンサートを開催いたします。

期 日 12月7日(日)
開 場 13時30分
開 演 14時
会 場 武蔵野市民文化会館大ホール



第一部 ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団
『弦楽四重奏曲 第二十番 変ホ長調 K499』
作曲:モーツァルト
第二部 成蹊大学混声合唱団
『混声合唱曲集 地平線のかなたへ』
作詞:谷川俊太郎 作曲:木下牧子
指揮:坪根武士 ピアノ:金刺佐和子
第三部 ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団、
成蹊大学管弦楽団
『交響曲第九番(新世界より)』
作曲:ドヴォルザーク 指揮:田中一嘉

ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団 1996年度モーツァルト解釈賞受賞団体

1972年ウィーン・フィルの第一ヴァイオリニストであるギンター、エックハルトのザイフェルト兄弟とヴィオラのクドラック、チェロのフォッグによって活動を開始する。ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団と共にウィーン・フィルのベスト・スリーに挙げられる弦楽四重奏団です。その長年の優れた演奏活動に対してウィーン・モーツァルト財団より「1996年度モーツァルト解釈賞受賞団体」が授与されました。

鑑賞ご希望の保護者の方100組(200名)をご招待します。
申し込み方法:官製往復はがきにFC希望とお書きの上、郵便番号・住所・氏名・電話番号・お子様の在籍学校名をご記入の上お申し込みください。

受付期間 11月20日(木)消印有効
申し込み先 総務部総務課(〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1)

応募多数の場合は抽選とさせていただきますので、予めご了承ください。

SLSの特色、目指すもの

法科大学院開設準備室委員・法学部長 富田 武

法科大学院設置認可申請手続は、十一月末の認可に向けた最終段階にあります。この段階で、あらためて成蹊大学法科大学院（SLS）、正式には成蹊大学大学院法務研究科）の目指すものをお示しし、教職員、卒業生の御理解をお願いするものです。

周知のように、六月末に七二校が設置認可申請を行いました。法科大学院が修了生の新司法試験合格を目標とする以上、その教育課程に共通点が多いのは言うまでもありませんが（科目、双方向型の授業など）、各校が特色を出そうとしていることも事実です。

SLSの第一の特色は、昼夜開講制をとり、社会人を多様な形態で受け入れる点にあります。昼夜開講または夜間土日開講をとる法科大学院は数校しかありませんが、この方が、可能な限り多様なバックグラウンドを持った学生を受け入れるという設置基準の精神に則っているのです。実際、七月の進学相談会に見えた方の半数以上は社会人で、中には企業で中堅クラスの方や既に税理士、弁理士等の資格をお持ちの方もいました。夜間の伝統を持たない成蹊が昼夜開講に踏み切ったことが歓迎

迎、支持されているのです。SLSが優秀な社会人を迎え入れれば、一般学生と刺激し合い、従来の司法試験合格者ランキングに示される偏差値秩序を多少とも変化させる展望が開けます。

SLSの第二の特色は、少人数教育を他校のように法科大学院で初めて実践するのではなく、法学部で培ってきた伝統の上に、蓄積してきたノウハウをもって実践する点にあります。

SLSの第三の特色は、中・小規模校の相当数も掲げる企業法務・渉外法務中心の方針に、教員スタッフが揃っているのみならず、三菱系諸企業からエクスターンシップ先などで協力をいただいている裏付けがある点にあります。

私たちは、認可後の受験生獲得の競争、そして二〇〇六年の新しい司法試験の合格者・率をめぐる競争を見据えながら、教材開発や教員研修など教育内容面で準備を急いでいます。大学間の競争が専門職大学院をめぐる競争に移った時代の趨勢を理解され、SLSの成功の裏の立ち上げ、二〇〇四年四月開校を支援してくださるよう、お願いいたします。

法科大学院ホームページをリニューアルしました。



各学校トップページの下にあるTOPICSのボタンからご覧いただけます。
(http://www.seikei.ac.jp/university/law_faculty/law_pstg/index.html)

SLSからのメッセージ、法科大学院設置構想、カリキュラム、サポート体制、学費・奨学金、入学試験、Q&Aなどの情報を掲載しております。

詳細につきましてはこちらのホームページをご覧ください。



R&Iより格付け「AA」を取得

学校法人成蹊学園は、この9月「AA-（ダブルAマイナス）」の格付けを株式会社格付投資情報センター（R&I）より取得しました。

この格付けとは、事業体の財務の健全性を客観的に表す指標であり、企業が社債等により資金を外部から調達する際に、財務状況の第三者評価として公開されます。投資家にとって、この格付けは、投資するかどうかを決める重要な判断材料のひとつであり、元本や利息の回収リスクをはかるために利用されます。本学園が取得した格付けは、正式には「長期優先債務格付け」と呼ばれるもので、発行体の負うすべての金融債務に対する総合的な債務履行能力についてのR&Iの評価となります。

格付けランクは21段階あり、本学園が取得した「AA-」は上位から4番目に位置する高い評価であり、東京三菱銀行、三菱重工、三菱商事、三菱地所、日本郵船、フジテレビ等と同格になります。

今回、本学園がこの格付けを取得した目的は、次の理由からです。

1. 私立学校が直面している厳しい経営環境にあって、経営基盤である財務の健全性を第三者から客観的に評価してもらい、その結果を今後の学校経営に活かすこと。つまり、強みとして評価されたことをより積極的に伸ばし、弱みと指摘されたことを早期に正すことです。
2. 本学園の各学校への入学を希望する受験生やその保護者の皆様に将来の不安がなく、安心して勉学に励んでもらえる学校であることを財務の健全性という観点からお示しすること。
3. 本学園の在学生、および学費の負担者であるご父母等保護者の皆様へ財務状況や経営状況をディスクローズし、学校運営の信頼を得ること。

これらの目的に加え、今回高い格付けを得たことにより、市場からの外部資金調達も将来的に可能になりました。現在、創立100周年記念事業を進めており、募金活動も始めましたが、記念事業費総額158億円の一部に外部資金を導入することも考えられます。

これまで、この格付けは主に資金調達を目的に事業体を中心に取得してきましたが、大学の第三者評価や経営・財務の情報公開が社会的に要求されるようになり、法政大学、日本大学、早稲田大学、大阪経済大学でもこのR&Iの格付けを取得し、結果を公表しています。今後、各大学で次々と格付けを取得することが予想されていますが、これまで公表されている法人と本学園を比較すると、概ね次のことが特徴と言えます。

つまり、学生数・教員数等の規模においてかなりの差異があること、本学園と同等以上の格付けを得ている大学はいずれも日本有数の規模を誇り、本学の3倍から8倍程度の学生数を有しております。もう一点は、本学園の格付けが、小学校から大学まで含めた総合学校法人の格付けであることです。小学校を

含むという点では初めての評価になります。

このようなことを踏まえてみますと、今回の格付け結果は、収支規模において中規模程度の小学校から大学までを有する総合学園が、圧倒的な規模を誇る大学法人と比較して遜色のない評価を得たものであり、これまでの本学園の経営方針が財務の健全性という側面が高く評価されたものと自負しています。

今後は、この評価に甘えることなく、高校と大学の連携等課題として指摘を受けた点はもちろん、一層の充実を図るため財務基盤の強化と健全性に努めていきたいと考えています。

R&Iによる格付け評価の理由は、次のとおりです。

評価のポイント

1. 「少数による個性尊重の人格教育」や「吉祥寺のワンキャンパス」などをキーワードに独自のブランドイメージを築き上げており、入学志願者動向は堅調である。
2. 小学校、中・高等学校は大学の附属校という形態をとらず、並立的に存在しているため独立性が高く、特色ある教育を進めやすい一方で学校間の連携が課題となる。高校から大学への内部進学率が落ち込んでおり、高校と大学の連携強化が課題となる。
3. 吉祥寺という魅力的なロケーションの一箇所のキャンパスに小学校から大学院までの一貫教育が可能なのが強みの一つとなっており、こうした学習環境を生かして学生や生徒が進学できることは「成蹊ブランド」の価値を高める上で重要な点である。
4. 施設拡充引当特定資産等各種の特定目的引当金の蓄積は厚く、良好な財務内容である。創立100周年に向けて新たな整備計画を予定しているが、財務面での追加的な負担はそれほど重くないと思われる。早くから将来の財政状況を念頭において財務戦略を策定しており、財務面での安定性は高い。
5. 90年度から2002年度までキャンパス再開発を推進し、建物の新築等の大規模なリニューアルをする傍ら内部留保の蓄積を進めたことは評価できる。私学事業団からの借入金があるが、借入返済準備金引当特定資産を設け約定返済に備えており、実質無借金である。
6. 特定の目的に偏らずに人格の陶冶に力点を置く人格主義を標榜し、現在でも個性を尊重したface to faceの少人数教育を重視している。早くから地域とのつながりを重視し、自治体との共同研究や公開講座などの実績も豊富である。
7. 三菱色の強い学校と受け止められていることは、ブランドイメージにプラスに働いているが、実際には三菱グループの関与度は小さい。しかし、近年同グループとの産学連携を模索する動きがあり、双方にメリットが生じる形で提携を展開することができるか、注目したい。

双方向型授業形態に基づいた 密度の濃い授業で、法律問題に対する 理解・解決能力の育成を図ります。

成蹊大学 法科大学院は法学部出身者に限らず、他学部学生、院生、社会人を広く受け入れる法科大学院です。標準修業年限3年(法学既修者は2年)を修了すると、現行とは異なる新司法試験の受験資格が得られます。新司法試験に合格し、一定期間の研修を受けることによって法曹(裁判官、検察官、弁護士)として活躍することができます。

5 企業法務重視

涉外弁護士、企業法務スタッフの育成を目指します。

成蹊大学 法科大学院の教育目標として、社会生活上の医師としての役割を果たしつつ、国際化するボーダレス社会に対応できる、涉外弁護士、企業法務スタッフの育成を目指していきます。国際経験豊かな研究者教員、わが国でも有数の涉外弁護士をはじめ、現役の企業法務部長クラスの協力や、また、成蹊学園と縁の深い三菱系諸企業と連携し、「企業法務に強いロースクール」として、その特色を生かしていきます。

6 社会人支援

働きながら学ぶ社会人を支援する時間割を組みます。

成蹊大学 法科大学院の標準修業年限は3年ですが、働きながら通う社会人に対し、4年ないし5年の長期履修学生制度も用意し、多様な時間割による講義を提供する予定です。月曜から金曜までの夜間と土曜に科目を配し、補的に夏期集中講義も構想しています。また、自身で、または勤務先の了解を得て都合をつけられる方は、一部昼間の講義を履修することもできます。

緑に囲まれた 真新しい校舎で学ぶ、 法科大学院棟。



□ 独立した法科大学院棟

法科大学院棟はキャンパスより独立しているため、早朝・深夜・休日の利用が可能です。また教員研究室を内部に設けていますので、常に教員の個別指導を受けやすい環境が整っています。

□ 1階と2階のロビーラウンジは交流の場

学生同士あるいは学生と教員の交流と息抜きの場としてラウンジを設けました。さまざまなバックグラウンドを持つ学生にとっては、一種の異業種交流の場となることでしょう。

□ アメリカのロースクールスタイルの自習室を完備

法科大学院棟2階は、学生一人ひとりのスペースを確保した自習室になっています。一室20人が割り当てられ、机にはパソコン用端末も備えつけられています。授業以外の貴重な時間を勉学に集中する場として活用できます。

□ 模擬法廷を備えた講義室

収容人数に応じた大小の講義室、演習室、模擬法廷を設置しています。また、法科大学院専用の図書室を設置し、法学基本研究書や法令・判例集を備えています。併せてキャンパス内にある大学図書館も利用することができます。

1 多彩な人材

多彩なバックグラウンドを持った学生を募集。

成蹊大学 法科大学院は、制度の趣旨に基づき、法学部以外の出身者を受け入れます。特に、特許関連の仕事がしたい工学部学生や工学系院生をはじめ、企業法務の仕事がしたい経済学部学生や経済系院生など、多彩なバックグラウンドを持った学生を歓迎します。また、社会人の受け入れを積極的に図り、特に企業法務若手スタッフを対象とした再教育ならびに資格取得に向けた法科大学院、さらには、弁護士事務所や企業、官庁、自治体などで働くパラリーガルの方や、司法書士の方へも、広く門戸を開放する法科大学院とします。

2 人数

少人数教育の伝統を活かします。

成蹊大学 法科大学院の入学定員は50名で、内訳は法学未修者30名、既修者20名となっています。3学年の収容定員150人に対し、専任教員は15名で、対学生比1:10となり、設置基準の1:15を上回った少人数教育です。「法律基本科目」は短期間に効率的に教授しなければならないことから教室講義の形態となりますが、従来の一方的な講義とは異なり、学生とのやりとりを交えた授業を展開します。全体として1クラス20名程度の面倒見のよい小規模ロースクールを目指しています。

3 特色

双方向型授業形態に基づいた密度の濃い授業をします。

双方向型授業形態(ソクラテス・メソッド)とは、教員が一方的に講義をするのではなく、学生と教員の間で、あるいは学生同士の議論を通じて進められる授業です。たとえば、ある判例・事例に対し、学生同士がグループとなり話し合い、ひとつの見解としてまとめたものを教授に投げかけ議論します。結論にいたるまでには、経済学的・社会的・哲学的・歴史的理解など、さまざまな知識の厚みを背景とした理解が不可欠です。双方向的な密度の濃い授業を行い、実務上生起する問題の合理的な解決能力を磨いていきます。

4 架橋

理論と実務を架橋した、法学教育を行います。

法律基本科目では、公法、民事法、刑事法の基本的知識の修得と法的思考力の涵養に努めながら、実体法と手続法を総合的に捉え、判例・事例と結びつけた法理論を学びます。法律基本科目の学習においても理論と実務の架橋が意図されていますが、実務基礎科目を通して、将来の法曹として必要な法理論と結びつけた実務の基礎を学ぶことができます。民事実務基礎や刑事実務基礎及び法曹倫理はそのような科目ですし、さらに、法曹業務の実践と直接結びついた科目も用意されています。例えば、ロイヤリングでは、将来の実務修習に応用できるように、事案の把握と分析能力、依頼者などとの面談や聞き取りあるいは相手方との交渉などのコミュニケーション能力を養成します。また、エクスターンシップでは、実際に弁護士事務所などに赴き実務体験をします。展開・先端科目には、現代に生きる法曹として必要な科目を用意していますが、いずれも豊富な研究実績と実務経験を備えた教員が担当しますから、いくつかを選択して深く学び、得意な分野をつくってください。

カウラ短期ホームステイ

今年の夏は成蹊中学生・高校生との混合グループでオーストラリアのカウラ市に短期ホームステイをするという新しい企画が実施されました。

成蹊高校は一九七〇年からカウラ高校と交換留学を始めて、毎年一人の生徒を送り出して三十年以上の歴史を刻んできました。一九四四年八月にカウラにあった捕虜収容所で日本人捕虜の大脱走事件があり、日本軍兵士およそ二五〇名、オーストラリア軍兵士四名が命を落としました。しかしカウラの人々は自国の兵士のお墓だけでなくこの脱走事件で亡くなった日本兵のお墓の手入れもしてくださったのです。その後当時カウラ市長であったA・J・オリバー氏がオーストラリア全土でただ一カ所、カウラ市にまとめられた日本人戦没者の墓地の整備・管理に止まらず両国友好親善のため留学生交換計画を立案し、日本大使館参事官木名瀬智氏に提案し、成蹊高校にその白羽の矢は立てられました。一九六九年オリバー氏は成蹊に来校し、時の中高校長長原美能留先生と善意を尽くして交換留学の試行に踏み切ることを合意するに至ったのです。このように始まり続いてきた交換留学ですが、私達がカウラについてほとんど何も知らない状況に比べ、カウラの人々が日本を理解し、深く好意を

持って迎えてくださっている状況を私達にもっと多くの生徒に知ってもらい、更に理解と友好親善を深めるために、夏休みを利用して程度の規模で短期の留学はできないものかと検討してきました。この度カウラ高校側のご厚意で、十五名程度の規模ならば一人一人家庭のホームステイの協力ができるといふ、真の理解と友好を築くにはこの上ないお申し出を頂き、実施の運びとなったものです。

【日程】
二〇〇三年八月十五日(金)～
九月二日(火)
十六日(土) 機内泊

ここに参加者の一人、中学三年竹内奈未さんの留学の感想を紹介します。

「カウラ短期留学を通じて」
八月十五日から九月二日まで、私達二十人はカウラ短期留学に参加しました。カウラ市はオーストラリアのニューサウスウェールズ州にあり、シドニーから三百七十里離れています。

オーストラリアに到着の初日は、シドニーのホテルに宿泊しました。次の日、シドニーからカウラまではバスで移動しました。窓の外はどこまでも青空と草原が続き、羊、馬、牛などを見ることができました。そんな光景を見ながら、どんな家で生活するのか、ホストファミリーはどんな人達だろうかなどと思いつかへていました。そして、カウラに近づくと興奮と緊張感が募ってきました。



カウラ高校へ登校一日目。私はスクールバスで登校しました。学校に着くと、私に「こんにちは」と挨拶してくれる人もいました。カウラ高校には日本語の授業があるのです。午前はカウラの先生による英語の授業、午後はカウラの生徒と同じ授業を受けます。先生の説明も全てが英語なので、日本に帰る頃には自然と英語を聞く力が身に付いていました。授業は、日本にはない興味深いものばかりでした。例えば、ロボットの授業、フードテクノロジーや演劇の授業がありました。どれも遊び

感覚があり、自分のやりたいことをのびのびとできる感じでした。また、部活が無い代わりに、毎週水曜日の午後はスポーツデーとなっていて、ラグビー、テニス、ネットボールなどの中から好きな種目を選んで参加します。



サヨナラパーティー カウラ タウンホールにて

中学夏の学校

昨年は台風の影響で予定を一日短縮して行われた夏の学校でしたが、今年の中一、中二共に七月十六日からそれぞれ三泊四日、四泊五日と予定通り実施されました。一年生は連日夜は雨に見舞われ、星空観察こそできませんでしたが、日中は天気に恵まれ三日間にわたり車山肩、蝶々深山、物見岩、釜ヶ池キャンプ場コースや、十数名の高校生や大学生のヘルパーによる観察指導を受けながらの八島が原湿原の観察学習、飯倉炊爨で生活の基本的技術の体験等を中心に、仲間作りに励んできました。

また二年生は東麓ノ登山、三方ヶ峰、見晴岳、宿舎コースや烏帽子子岳、湯ノ丸山コースというなか



然別湖畔での夕食作り 富良野のラベンダー畑にて

学習旅行 北海道



四万十川でのカヌー体験

学習旅行 四国



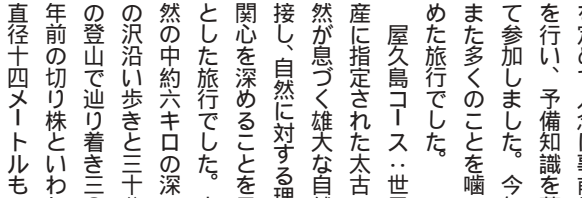
坂本龍馬像前にて

学習旅行 沖縄



首里城にて 摩文仁の丘にて

学習旅行 屋久島



世界遺産の森にてレッキング 屋久島の大自然

なかハードな登山をしたり、ハイヤーやゴ、ブルーベリー等の収穫体験学習等盛り沢山の内容を全て実行し、満足して元気に帰京しました。

高等学校 学習旅行

一 夏の夏は国際情勢の影響で韓国の学習旅行は成立せず、昨年と同じ次の国内コースに多くの生徒が参加しました。

- 北海道アウトドアコース (7/20～7/23 44名参加)
四国(八)コース
第一期 8/30～9/2 34名参加
第二期 8/31～9/3 33名参加
沖縄コース (8/31～9/3 35名参加)
屋久島コース
Aグループ 8/30～9/2 21名参加
Bグループ 8/31～9/3 24名参加

Cグループ(8/31～9/3 20名参加)
総計 211名参加
北海道コース：旭川空港から入り、初日は美瑛町の北西の丘展望公園から美瑛サイクリングでアウトレッドスポーツの足慣らしの開始。この日は富良野の広大な畑に咲き乱れるラベンダーに魅了され、狩勝峠を越えて目的地然別湖に到着。翌日から三日目の午前までこの湖畔での野外活動はネイチャーセンターの指導員の指導でカーン、テントを張ってねぐら作り、夕食作り、リバーウオッチング、森の散歩、ナイトウオッチングとアウトドアプログラムが中心に盛り。その後阿寒湖に立ち寄り、そして日本最大の湿原、釧路湿原の一角を占める達古武湖周辺の湿原散歩でこのプログラムは締め括りました。

四国コース：高松空港から入り先ずは金刀比羅宮詣をして旅の安全祈願。そしてつどん学校で讃岐うどん作り、地元の方々の指導による塩作りやつおのたき作り、日本最後の清流といわれる四万十川で川エビの仕掛けを作り漁をして食したり、カヌーの講習を受けて四万十川サイクリング。地元の人々から生活の知恵である様々な技術の教えを受け、食を味わい自然と人情に触れる旅でした。

沖縄コース：旅行中に平和学習の日を設け、平和記念資料館、講演、映画、壕、ガマ、慰霊碑等の見学を通じ、沖縄戦の実相に触れて平和の大切さを学びました。亜熱帯気候に属した豊かな自然に育まれた食文化、音楽、言語、芸術等について一人一人が旅行の観点

Table with sports results for middle and high schools, including tennis, soccer, swimming, and basketball.

運動部・文化部の活躍
一 夏の夏もまた多くクラブが対外試合やコンクールに参加しました。その中で地区予選を勝ち抜き都大会以上に出場したクラブを紹介します。

五年夏の学校は「志賀」から「裏磐梯」へ新たな「蹊」の創造のために

十八年の歴史を持つ成蹊小学校。その流れの中で、良き伝統を生かしつづけるという思いは、確実に繋がっています。今も昔も。しかし、何もかもがまったく同じ形のままに現在に残っているわけではありません。自然環境や社会環境、人的な環境の変化は、「伝統」という名の内容を微妙に変化させてきています。今回紹介する「五年生の学校」もその一つです。志賀高原寮の閉鎖にもなつて、場所は福島県の裏磐梯に移り、新たな夏の学校の模索がその地で始まりました。新しい視点の一つが「農業体験」を含んだ『現地総合学習』の形です。

「バスに乗り、わたしは考えた。(農業の仕事、なにを手伝うのだらう。)」と心の中はワクワクしていた。夏の学校二日目、その日は農業体験だった。開校式が行なわれるJAにつくと、農家の方々がプラカードをもって待っていてくださった。...

《前村 美希》

二十の班に分かれ、受け入れてくださる農家の方々と共に、子どもたちは、農家に畑に作業場とに分かれていきました。心配顔な教師集団とは対照的に、期待に胸膨らませた生き生きとした子どもたち

の表情がそこには存在していません。これからの各農家での昼食を含めた一日の生活が始まったのです。この日の様子は、写真と子どもたちの文章表現から読み取っていただきたいと思います。

「アスパラ畑まで行った。すぐくあつかった。まず、雑草をぬいた。根が長くて、とちゅうで「ブチン」と切れてしまう。まちがえてアスパラまで切ってしまった。でも、細いアスパラは切ることになるからよかつた。」

畑で生のアスパラを食べた。アスパラは大きらいだったけど、取立てのアスパラは、あまくておいしかった。初めてアスパラをおいしいと思った。...

その後、少し畑の辺りを歩いた。そのとき食べたキュウリは、新鮮な味でおいしかった。水田に風がふくと、稲がウエーブのようになつてきれいだった。畑の横にあつたわらをひっくりかえしたら、カブトムシのメスがいた。へびもいた。...

《内藤 真帆》

「農業体験は牛のえさやりからでした。四角くかたまっているえさを三十グラムずつ、一頭の牛に、手ですこしずつすこしずつ、ほくしてあげました。牛は全部で三十頭ぐらいいたので、行ったり来たり行ったり来

たり、あつち行ったりこつち行ったり大変でした。とてもえさが重く、わらをふんでしまいいつるところびそうになることも、たびたびありました。校内着にまでえさがくつき、ちくちくして、いたいというかかゆいというか、何ともいえない気持ちでした。一頭の牛にえさをあげていると、となりの牛も首をのばして、ほかの牛のえさを食べようとするので、「あなたのはこれじゃない。」と言って、自分のえさを食べさせた。...

「アスパラ畑まで行った。すぐくあつかった。まず、雑草をぬいた。根が長くて、とちゅうで「ブチン」と切れてしまう。まちがえてアスパラまで切ってしまった。でも、細いアスパラは切ることになるからよかつた。」

「農業体験は牛のえさやりからでした。四角くかたまっているえさを三十グラムずつ、一頭の牛に、手ですこしずつすこしずつ、ほくしてあげました。牛は全部で三十頭ぐらいいたので、行ったり来たり行ったり来



「まず最初に花をぬき、軽トラの荷台にそれを運んでいく作業をやることになりました。ピニールハウスの中はむしむしと

たいなものをねじってできたひもの間に葉タバコをはさんでいきます。葉タバコを軽く押しつけて機械にあたると、ひもの間に葉が入り、つながっていきます。だんだんなれてくると、どんどんできて、さっさとあめめす。ほすので、一れん三十五枚から四十枚ほどです。そのぐらになつると、機械のブザーが鳴ります。「ブー」。あつまた終わつた。はいいなー。」と言っている間にまたできます。またできます。これはおもしろいのです。...

《田中 佐和子》

黄色い花にふれないといふことでした。この花にふれると、花粉がおちてしまつので、「その花にさわつちやいけないよ。気をつけてるね。」と注意されました。その黄色い花は、私たちが作業したピンクの色の花の両わきにおいでありました。注意されてからは、ますますすしんちようになつて、花を運びました。そして最後に、花いっぱい軽いトラックの荷台に乗りました。と真ん中にすわると、花、花、花だらけで

熱くて、その中でほんの四十歩くらい歩いただけであせがにじみでできます。花をぬきとり、たくさんたまつたところで運ぶ。またぬいて運ぶ。その作業は一人十五回くらいやって、ぶつたおれるかと思ひました。それでもまだピニールハウスの中の仕事が続きます。ネットやホースをかたづけ、ピニールをはずして、鉄のぼうもぬきとります。...それから畑まで行って、荷台に乗っている花を捨ててしましました。(出荷できなくなつちやつた花って、こんなことになつちやうんだ。あーあ、もつたいない。あの花、まだきれいなピンク色じゃん!あの花も...)と思ひました。一番この作業で用心したことは、出荷する

「煙の草ぬきをしました。その時、初めて気がついた事があります。一つ目は、土にもみがらをまいていた事です。これは、土をやわらかくする効果と、土に養分を送る、という二つの効果があるそうです。二つ目は、道にワラをしいていた事です。この効果は、ぬいた雑草をワラの道に置いておく、再び根を生やす事ができなくなるという事です。農業を使わない有機野菜なので、この二つの工夫をして、土に養分を送っているのだそうです。少しの

「ぼくたち男子三人は、一輪車に葉タバコをあんだ物をのせてピニールハウスへ行きました。そこであんだ葉タバコをつるします。つるし方は、まず右の方に一人、左の方へ一人そして、真ん中を一人が持つて、左右の人がつるします。そのときに、まず上をおして、「わ」をつくり、そして先の方のでつるしている部分を、「わ」にひっかけるつるせまします。それを十たばくらいやってもどりました。ひとたばがかなり重いものでした。...《塚本 翔太》

「最初に、グリーンアスパラの畑に行きました。畑を見たらゆんかん、ぼくはびっくりしました。なぜかという、量の多さと、竹の子のように土からちよくせつグリーンアスパラが出ていたからです。もつとびっくりしたことは、武藤さんが、「グリーンアスパラは、一日に約七センチメートルものびるんだよ。」と言われた時です。...

「最初に、グリーンアスパラの畑に行きました。畑を見たらゆんかん、ぼくはびっくりしました。なぜかという、量の多さと、竹の子のように土からちよくせつグリーンアスパラが出ていたからです。もつとびっくりしたことは、武藤さんが、「グリーンアスパラは、一日に約七センチメートルものびるんだよ。」と言われた時です。...

「キュウリは、いろいろな形をしているのがあつた。丸になつているものやS字のようにまがつていたものがあつた。ふだんスーパーで売っているものは、ほとんどまっすぐのびているものだ。だから、そんな形のものを見て、ぼくはびっくりした。(キュウリって、こんなかっこうのものもあるんだ。おもしろい形をしているなあ。あ、満月みたいなやつがある。でも、こんな形のものたくさんあるのだったら、反対に、いつもスーパーに出ている形のいいキュウリは、少ししかとれないのか

「最初に、グリーンアスパラの畑に行きました。畑を見たらゆんかん、ぼくはびっくりしました。なぜかという、量の多さと、竹の子のように土からちよくせつグリーンアスパラが出ていたからです。もつとびっくりしたことは、武藤さんが、「グリーンアスパラは、一日に約七センチメートルものびるんだよ。」と言われた時です。...



五年夏の学校は「志賀」から「裏磐梯」へ新たな「蹊」の創造のために

十八年の歴史を持つ成蹊小学校。その流れの中で、良き伝統を生かしつづけるという思いは、確実に繋がっています。今も昔も。しかし、何もかもがまったく同じ形のままに現在に残っているわけではありません。自然環境や社会環境、人的な環境の変化は、「伝統」という名の内容を微妙に変化させてきています。今回紹介する「五年生の学校」もその一つです。志賀高原寮の閉鎖にもなつて、場所は福島県の裏磐梯に移り、新たな夏の学校の模索がその地で始まりました。新しい視点の一つが「農業体験」を含んだ『現地総合学習』の形です。

「バスに乗り、わたしは考えた。(農業の仕事、なにを手伝うのだらう。)」と心の中はワクワクしていた。夏の学校二日目、その日は農業体験だった。開校式が行なわれるJAにつくと、農家の方々がプラカードをもって待っていてくださった。...

《前村 美希》

二十の班に分かれ、受け入れてくださる農家の方々と共に、子どもたちは、農家に畑に作業場とに分かれていきました。心配顔な教師集団とは対照的に、期待に胸膨らませた生き生きとした子どもたち

の表情がそこには存在していません。これからの各農家での昼食を含めた一日の生活が始まったのです。この日の様子は、写真と子どもたちの文章表現から読み取っていただきたいと思います。

「アスパラ畑まで行った。すぐくあつかった。まず、雑草をぬいた。根が長くて、とちゅうで「ブチン」と切れてしまう。まちがえてアスパラまで切ってしまった。でも、細いアスパラは切ることになるからよかつた。」

畑で生のアスパラを食べた。アスパラは大きらいだったけど、取立てのアスパラは、あまくておいしかった。初めてアスパラをおいしいと思った。...

その後、少し畑の辺りを歩いた。そのとき食べたキュウリは、新鮮な味でおいしかった。水田に風がふくと、稲がウエーブのようになつてきれいだった。畑の横にあつたわらをひっくりかえしたら、カブトムシのメスがいた。へびもいた。...

《内藤 真帆》

「農業体験は牛のえさやりからでした。四角くかたまっているえさを三十グラムずつ、一頭の牛に、手ですこしずつすこしずつ、ほくしてあげました。牛は全部で三十頭ぐらいいたので、行ったり来たり行ったり来

たり、あつち行ったりこつち行ったり大変でした。とてもえさが重く、わらをふんでしまいいつるところびそうになることも、たびたびありました。校内着にまでえさがくつき、ちくちくして、いたいというかかゆいというか、何ともいえない気持ちでした。一頭の牛にえさをあげていると、となりの牛も首をのばして、ほかの牛のえさを食べようとするので、「あなたのはこれじゃない。」と言って、自分のえさを食べさせた。...

「アスパラ畑まで行った。すぐくあつかった。まず、雑草をぬいた。根が長くて、とちゅうで「ブチン」と切れてしまう。まちがえてアスパラまで切ってしまった。でも、細いアスパラは切ることになるからよかつた。」

「農業体験は牛のえさやりからでした。四角くかたまっているえさを三十グラムずつ、一頭の牛に、手ですこしずつすこしずつ、ほくしてあげました。牛は全部で三十頭ぐらいいたので、行ったり来たり行ったり来



とつても力がいるので、力を入れすぎて、牛のふんなどをためておく(おとしておく)ところに、足をつっこんでしまいいつらなつたことも、何度かありました。(牛のふんそうじは、大変だな)と思ひました。牛のふんは、人間のように入まつてい

「軽トラックに乗って、葉タバコ畑に向いました。...「じゃあ、葉タバコの葉をとるべ。ええか、これはな、下から四枚取るんだ。こやつて葉のところを親指のせて「ポキッ」と教えてくださいました。葉を取ろうとして、あらためておどろきました。高さは百七センチくらいでしょうが、顔の三倍もある葉が、どんととなり、木に見えるくらいです。...



「ポキッ。葉を折るいい音がします。「ポキッ。」なんだか気持ちのいい音です。...みんな一たばぐらいつたら、今度はピニールハウスへ行きました。ここでは、葉タバコの葉をあみ、つるす仕事をするところです。葉タバコをあむのは、機械です。ピニールひもみ



もしれない。農家の人も大変だ... ぼくは、トマトをみがいてい... このかこの中に入っているトマ...

「...いよいよお別れです。なん... だかさみしいです。閉校式でお... 母に見せてあげて、このお米...



けに過ぎませんが、農業作業を自... 分が体験したことによって、今... 盗み知ることではできたのです...

学園 Topics

箱根寮

年末年始特別営業のお知らせ

昨年に引き続き、箱根寮の年末年始特別営業を行います。営業期間は、12月29日(月)~1月5日(月)です。

また、箱根の紅葉は、11月上旬から12月上旬が見ごろです。箱根散策の拠点として、箱根寮をご利用になられてはいかがでしょうか。



学内にコンビニエンスストア「am/pm」がオープン

9月22日、トラスコンガーデ... 学内にコンビニエンスストア「am/pm mini market 成蹊大学店」がオープンしました。



これまでの売店に比べ、取り扱い品目が倍以上となり、新たに雑貨や衣料品、新聞・雑誌等も購入できるようになりました。

営業時間：月曜～金曜(大学授業期間中) 8:30～19:00 割引サービス：とれたて弁当、寿司、おにぎり 5%引き

ご父母の皆様や卒業生の皆様、成蹊にお越しになられた際にはぜひお立寄り下さい。

(管財課)

社会基盤として息づく救命

多くの惨劇が繰り返されていま... 天災、テロ、戦争、人の命を奪い、幸せな生活や健全な文化を奪う脅威は一向に減りません。

この絶対命題を原点として、以下に示す多くの波及効果が期待されるからです。教職員・学生等が救命法を習得する事で、学園内で倒れても相互救命の意識が高まり、普及員は立場指導者としての使命感・責任感を抱く事から、日頃より救命に対してより実践的な対応が期待出来るようになります。

時対応基地として多くの救済に当たることも救命精神を基盤としま... 工学部では危険を伴う実験もあり、以前より救急処置法を話し

導を行い、学生普及員は卒業しても新しい環境で救命法の指導者として活動を続けて行けます。これ以外にも救命法を学内に普及するメリットには計り知れないものがあります。

救急隊が到着するまで市民の心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)で助けられれば、日本の病院外心肺停止の救命率が飛躍的に改善すると考えられています。

保健管理センターから

成蹊における普及員の意義... 成蹊学園では救命法の普及を推進しています。これは命を救つと

成蹊の救命精神は災害時や生命危機管理を含めた学園全体の危機管理システム構築の原動力ともなっています。

中高保健委員の普通救命講習は成蹊大学の普及員の指導で行われました。また全日空の職員に対する上級救命講習でも成蹊大学の教員や学生の普及員により実技指導が行われました。

成蹊はこの時代の寵児として新世代を開拓して行くこととして... 心肺停止から五分で脳は回復不能な状態へ陥ります。この五分間、

この成蹊の益々の発展・充実に保健管理センターは全力を尽くして参ります。保健管理センター所長 櫻井勝